

留学先：フィンドレー大学

氏名：近藤英実歩（留学時：教育地域科学部学校教育課程 4年）

留学期間：2016年8月～2017年5月（9ヶ月）



交換留学を希望した動機	留学を初めて夢描いたのは高校生の時で、その時はまだ「自分の視野を広げたい」という漠然とした動機しかありませんでした。しかし、福井大学に入り様々な経験を積んだのちに、「日本文化を現地の人と共有したい」「自分に自信をつけたい」「英語力を伸ばしたい」というより明確な自分の思いに気がきました。そしてその思いにぴったりだったのが、交換留学という留学方法でした。様々な国からの同年代が集まった環境は、自分を鍛えるためには最高に刺激的なものになるだろうと思ったからです。
留学先を決めた経緯	フィンドレー大学は、私の所属する英語教育サブコースの先輩方が代々留学されてきた大学でした。その先輩方から、フィンドレー大学では多くの課外活動の機会に恵まれており、先生方のサポートも手厚いということを伺っておりました。自分のやる気次第で、様々なことに挑戦させてもらえる環境、そしてアメリカという世界をリードする国でその世界一たる所以を肌身に感じたいという思いから、フィンドレー大学に留学することを決意しました。
留学先の大学について (特徴や紹介したい特色)	フィンドレー大学は五大湖の下にあるオハイオ州の北西部に位置するフィンドレー市にある私立大学です。世界 35 か国から約 4200 人の学生が集まり、約 500 人の留学生在籍しています。スクールカラーは黒とオレンジで、かつてフィンドレー市が石油と天然ガスの産出で栄えたことから、学生たちは自分のことを「Oilers」と呼び、「Derrick(石油採掘に使われる重機)」という名のマスコットキャラクターもいます。獣医学や核医学、乗馬のコースが有名な大学で、他にも 100 近くの文化系サークルや、24 の運動部もあります。1000 人以上の学生がキャンパス内の寮またはシェアハウスで暮らし、食べ放題のカフェテリアはいつも多くの学生でにぎわっています。
留学先で履修した科目や学習等	8 月半ばから 12 月初旬までの秋学期には、ライティング・リーディング・識字教育・入門フィルム写真学・学部入門セミナー・日本文化交流・アメリカの人種についての授業を受けました。1 月半ばから 5 月頭までの春学期には、ライティング・識字教育・応用フィルム写真学・マーケティング・マクロ経済学・ロックミュージックスタイルの授業を受けていました。

	<p>前期で特に面白かったのはアメリカの人種についての授業です。この授業は定期的な授業が無く、主に月 1 度のフィールドトリップで構成されていました。奴隷制や公民権運動、南北戦争について各訪問先で学んでいく中で、今日のアメリカがマイノリティに対しての意識が高く寛容である所以を知ることが出来ました。また、授業の課題で人種についてのインタビューをする機会があり、その中で「日本の方が人種差別がある」という言葉を聞き、日本での人種に対する捉え方について改めて考えさせられることもありました。どんな相手に対しても偏見なしの「ノーマルな自分」であることの大切さを学びました。</p> <p>また、後期には前期で学んだ識字教育の知識を実際に子どもと関わる中で応用していく授業をとりました。英語が母語ではない自分が英語が母語の子どもたちに英語の読み方を教えなければならず、他の授業以上に緊張感を持って挑みました。はじめは不安ばかり抱えていましたが、子どもたちが私を信頼してくれている様子から勇気と教える立場としての責任感を持てるようになりました。毎回の活動は日本文化を交えながらのアクティビティも取り入れるなどと本当に楽しく、子どもたちとの時間は留学の中でもかけがえのない思い出の一つとなりました。</p> <p>留学先での勉学は、週に同じ授業が複数回あったり、課題がどの授業も沢山あったりと日本では経験したことのないような徹夜をするなど、大変さもありました。しかし、ハウスメイトや友人たちが必死に勉強している姿に励まされたり、親切なクラスメートや献身的な先生方のサポートもあったりしたおかげでその辛さも乗り越え、その分日本では学び得なかった多くのことを学びました。</p>
<p>あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージ</p>	<p>フィンドレーを留学先に選ぶことで得られる利点は沢山あります。まずは大学のある環境からいくつもの良さを見出せます。フィンドレー大学のあるオハイオ州はアメリカの中でもトウモロコシ畑や農牧地が広がる大平野に位置し、正直に言ってしまえば比較的“田舎”と表現できてしまうような場所です。しかしそのような環境で 9 か月間暮らすと、今まで持っていたイメージとは違ったアメリカを見ることが多々あり、とても面白いです。休暇中に都市部へ行くといかにアメリカの中でも多種多様な文化があるのかに気づくことが出来ます。そして、大学の規模や大学の位置する街が大きすぎない点も良さの一つです。大きすぎない分、友人・大学スタッフ・教授たちとの人間関係をより密に築くことが出来ますし、活躍の機会に手が届きやすいです。</p> <p>また、日本文化を紹介できる機会が豊富なのもフィンドレー大学の魅力的なポイントです。その活動から、いかに自分が日本文化を知らなかったかに気づかされます。また、アメリカから見た日本はどのよ</p>

	<p>うなものか、活動先での交流で知ることでもあります。そこで学べることはアメリカの文化だけではないのです。</p> <p>最後に、留学先がどの国のどの地域でどれくらいの大きさの所になるかは、どんな留学生活を送るかの大きな決め手となります。しかし、どこに留学することになったとしても一つ言えることは、すべては自分次第だということです。留学は楽しいことばかりではありません、人と比べてしまうなど、思い通りにいかなこと、つらいことももちろんあります。しかし、そのような現状をポジティブに受け止め、辛さも大変さも自分の成長の糧にすることで、限られた留学先での時間をより実りあるものにすることが出来ます。留学を考えている皆さん、留学がしたいならその気持ちは絶対に諦めないでください。諦めきれないほどの思いを持ち続けてこそ、どんな形であれ留学することになればその時間を最高のものにすることが出来ます。応援しています！</p>
--	---

【交換留学の成果について】

留学を終えた今、振り返るとアメリカにいた9ヶ月は本当に充実していて楽しかったと心の底から言えます。しかし留学真っ最中のころは、先述のように楽しいだけでは済まない辛さもありました。留学の目標に「自分に自信をつけたい」とあるのは、もともと日本での国際交流をしていた際、留学生たちの自信に満ちた姿勢や発言に圧倒されていたばかりで、自分にはどのような軸があるのかが分からなくなってしまっていたからです。そのような背景から、留学中は自分探しをし、見つけた自分は世界に通用するかを試そうという気持ちで挑んでいました。

しかし、留学開始当初は自分がどのように見られているのか、どの行動・発言がアメリカの文化では好まれるのかを常日頃から気にしてしまい、息苦しい状態が続きました。もちろんアメリカの文化を理解し、自分の中に取り入れることはその文化の中で生きていく上で大切です。しかし、その文化は自分の価値観に合うのかを考えるようにしていました。その中で新しい価値観に気づくこともあれば、自分がもともと持っていた価値観に気づかされることもありました。それは、留学中の異文化交流イベントや世界中からの留学生と関わる中で学んでいくことでした。そしてそのような交流を続けていくうちに、自然と「周りに好かれる自分」ではなく「自分が好きな自分」でいられるようになっていきました。本来の自分を前面に出していても、異国の地で沢山の友達を作ることが出来た経験は、自分に自信を与えてくれました。アメリカでの9か月間は、自分らしくいればよいのだということを感じさせてくれ、新し出会いにも物怖じしない今の自分に繋がっています。

また「日本文化を現地の人と共有したい」という目標から、異文化交流活動にも専念し、学内外のイベントに参加させていただきました。そこでは、書道や折り紙だけでなく、ソーラン節や茶道の披露をする機会もありました。学校を訪問した際には、日本の祝日についてプレゼンテーションをすることもありました。このような活動が認められ、「異文化交流賞」を学部留学生で唯一受賞することが出来ました。自分が心から楽しんでしていたことが、このような形で成果として現れたのは本当にうれしかったです。9ヶ月の留学を通して、このような様々な活動に取り組み、徐々にではありますが自分の英語の伸びも感じるようになっていきました。留学終了1か月前に受験したTOEIC

では、留学前のスコアから 40 点スコアが伸び、910 点をとることが出来ました。留学前に立てた「英語力を伸ばしたい」という目標も微々たる形ではありますが、達成できたのでちょっとした安堵感を抱いております。留学中は一切、英語の勉強をせず、英語を使って暮らしていただけだったので、英語の伸びは経験の後からついてくるものなのだと気付きました。

最後になりますが、フィンドレー大学での 9 か月間はこれからの自分の人生において大きな糧となる貴重な経験となりました。このような素晴らしい機会を与えてくれたすべての方々には、感謝してもしきれません。これからは、自分の留学経験を出来るだけ沢山のひとと共有していくとともに、フィンドレーで出会った人々とのつながりを大切にしていながら、次なる目標へ向かって邁進してまいります。

